

ゆきのようちえん・ゆきのがっこう

<梗概>

津南町にはニュー・グリーンピア津南という 1985 年（昭和 60）年 12 月 1 日にオープンしたリゾート施設がある。当初はグリーンピア津南という名称で、建築工事費 172 億円をかけて建設された。その後、政府の方針により廃止が決定されたが、地域住民からの要望や雇用創出などの目的から、ニュー・グリーンピア津南として 2005 年（平成 17）年 10 月 1 日に再オープンを果たした。私たちはここを拠点とした、津南町の交流人口の増加を考えた。

それは、「ゆきのようちえん・ゆきのがっこう」というプランである。ヨーロッパをはじめ、日本でも行われている「森の幼稚園（ようちえん）」の冬の活動をニュー・グリーンピア津南を中心に行えないだろうか。「ようちえん・がっこう」という名前ではあるが、幼稚園や小学校をつくるのではなく、修学旅行のような形で実施するプランをたて、子どもたちに雪の美しさ、雪から学べることの豊かさや、冬の津南町のよさを知ってもらおう。プランの中では農家民宿も考えている。農家民泊を行うことで、ニュー・グリーンピア津南だけでなく、津南町全体の活性化につながるだろう。子どもたちにとっても、雪の多い地域の冬の生活における人々の知恵を直接感じ取ることができ、郷土料理を食べることで食育にも結びつく。

私たちはこのプランの賛否などについて全国の「森の幼稚園」にアンケート調査を行った。その結果、参加したいという回答を数多く得られた。プランの内容についても幅広い意見・要望をいただき、プランの中に反映させた。現場の声を取り入れたことによって、より実現性の高いものになったと思う。

本発表では、以上のような「ゆきのようちえん・ゆきのがっこう」プランの実施により、交流人口の増加、スキー人口増加への動機付けとし、ニュー・グリーンピア津南を中心とした津南町の活性化を目指す。津南町が雪と共存し、親しむことのできる地域として発展するような政策になると考えている。

担当教員：野口暢子

代表者：山浦沙織

発表者：内山夏帆、山浦沙織

参加者：小野澤夢樹乃、森山舞子

はじめに

新潟県津南町は新潟県魚沼郡にある、新潟県の最南端に位置する面積 170.3 km²、人口 10,204 人(2016 年 8 月末現在)の自然環境に恵まれた町である¹。

例えば「秋山郷」は、1989(平成元)年に雑誌『旅』の創刊 750 号を記念して開催されたシンポジウムにおいて、岡田喜秋、C.W.ニコル、立松和平、辺見じゅん、椎名誠によって選定された「日本の秘境 100 選」のひとつである²。40 数万年前から大地の隆起と河川のはたらきによって形成され、段丘崖の高さや段丘面の広がり、そして 9 段にも及ぶ段数などから日本最大の規模であるといわれている「河岸段丘」などもある³。そして、1995 (平成 7) 年から 2015 (平成 27) 年の冬季(12 月～2 月)の積雪量が、一冬あたり「578cm」で全国 2 位となった新潟県の中でもとくに積雪量が多く、全国的にも有名な日本有数の豪雪地帯である⁴。

気象庁の記録によると、1980 (昭和 55) 年から 2010 (平成 22) 年の新潟県の平均気温は 13.9℃、年間降水量は 1821.0mm という統計が出ているが、津南町の年平均気温は 10.6℃であり、年降水量は 1900.5mm である⁵。

表 1. 新潟県と津南町の気温と降水量

	新潟県	津南町	差
最高気温	6.93℃	3.03℃	3.9℃
平均気温	3.77℃	-0.37℃	4.14℃
最低気温	1℃	-3.8℃	4.8℃
降水量	175.3mm	203.7mm	28.4mm

新潟県は冬型の気圧配置の影響により大量の雪が降るのだが、雪の粒子は落下速度が数 10cm/s 程度と遅いため、季節風が強く吹くと落下する降雪粒子はより内陸の地上に達することになる。また、海岸や平野部から山脈にかけての地形上昇により生成された降雪粒子も、同様に内陸に達することになる。このため、新潟県内でも海岸から遠い山沿いで降雪量が多くなる⁶。

¹ 平成 28 年度の住基人口・世帯数 - 津南町ホームページ

<http://www.town.tsunan.niigata.jp/soshiki/zeimuchomin/jinko-setai.html>

² 日本の秘境百選

<http://www1.cts.ne.jp/~kimata/hyakuhikyoku.htm>

³ 河岸段丘 (かがんだんきゅう) - 津南町ホームページ

<http://www.town.tsunan.niigata.jp/site/kanko/kagandankyu.html>

⁴ 過去の気象データ - 気象庁 | 過去の気象データ検索

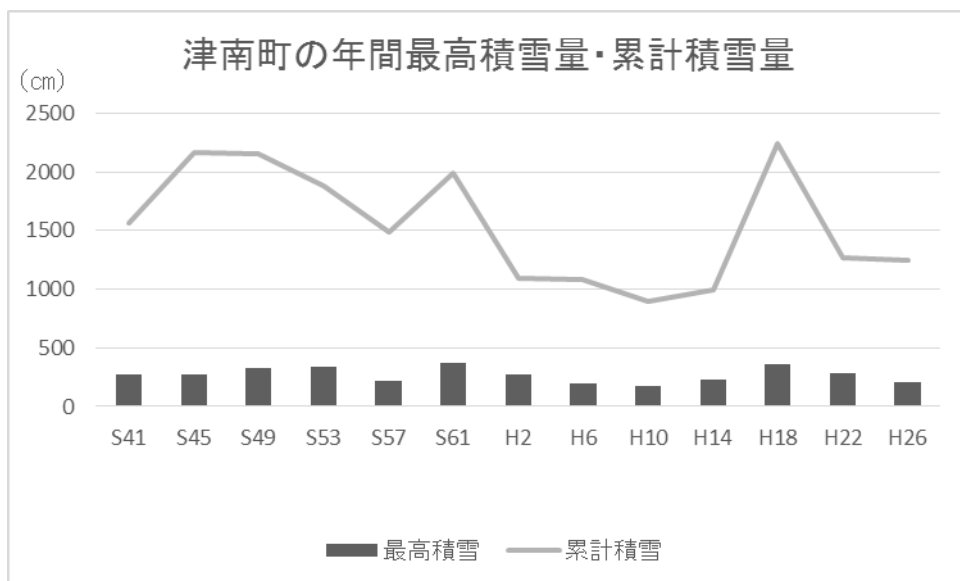
<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php?sess=6ef525a9cdef28cea634ce58ca736e68>

⁵ 新潟県 新潟の気候 (気温と降水量のグラフ (雨温図)) - 気温と雨量の統計

<http://weather.time-j.net/Climate/Chart/niigata>

⁶ 新潟県の気象の特徴 - 新潟地方气象台(Niigata Local Meteorological Office)

http://www.jma-net.go.jp/niigata/menu/bousai/met_character.shtml



< 出所 > 津南町ホームページ

上の図から読み取れるように津南町が統計を取り始めた1963(昭和38)年からほぼ毎年、累計積雪量は10mを上回っている。とくに2006(平成18)年の豪雪の際は毎年2月までに積もる雪が12月の2週間で積もり、年間累計積雪量は22m41cmを記録した⁷。また、最高積雪もほとんどの年で2~3mほどだが、1945(昭和20)年には6m27cm積もったという大記録が存在する。

今回、私たちが津南町での「ゆきのようちえん・ゆきのがっこう」プランを提案するのは、津南町のこの豊かな雪の環境が、子どもたちの発育と成長につながると考えるからだ。

東京都では2006(平成18)年から2015(平成27)年の間の10年間の平均年間降雪日数が8.5日、平均最深積雪は7.6cm。それ以前の10年間では平均年間降雪日数が8.8日、平均最深積雪は4.3cmとなっている⁸。雪が3cm積もっただけでスリップ事故が発生し、凍結の影響で転倒によるけが人が出る状況である。生まれたときから首都圏のような雪があまり降らない地域に住んでいる子どもたちにとっては、2~3m積もるのが当たり前の津南町は、想像もつかない未知の世界であろう。

そんな子どもたちに、「ゆきのようちえん・ゆきのがっこう」を通し、雪遊びの楽しさ、雪の素晴らしさを肌で感じてもらいたい。また、自然の厳しさを学ぶことで心身を鍛え、津南町の豊かな食文化に触れることで、本物の「食」や「いのち」の大切さを知ってもらうことも大きな目的のひとつだ。そして何より、今まで知ることのなかった「津南町」のたくさんの魅力を感じ、両親や親戚、友達など、多くの人にその魅力を伝え、もう一度津南町を訪れてもらうきっかけにしてほしい。このプランは子どもたちの成長とともに津南町の魅力の発信につながる事となる。

⁷ 津南町の降雪積雪情報 - 津南町ホームページ

<http://www.town.tsunan.niigata.jp/soshiki/kensetsu/yuki-joho.html>

⁸ 東京の年最深積雪の記録と年間降雪日数 - 気象庁天気相談所

http://www.jma-net.go.jp/tokyo/sub_index/kiroku/kiroku/data/64.htm

1. 森のようちえん

1-1. 森のようちえんとは

「森のようちえん」とは、幼児期の子どもたちを対象に屋外での遊びや運動を中心に様々な体験をしてもらうことで、知力と体力を同時に高めることができる新しいスタイルの子育てである⁹。園舎を持たず毎日森へ出かけて遊ぶ幼稚園と、基点となる園舎があり、屋外活動の一環として森での保育を行うところの2種類に分かれている。

ドイツやデンマークなどの「森の幼稚園」は、国が認めた公立の幼稚園として存在しているために漢字で表記されているが、日本では無認可であることや、「自然体験活動を基軸にした、子育て、保育、乳児・幼少期教育の総称」と定義付けられているために平仮名で「森のようちえん」と表記されている¹⁰。

「森の幼稚園」には、デンマークで母親がわが子と近所の子どもの保育を森の中で始めたものと、スウェーデンの「森のムッレ教室」から始まったと言われているものの大きな2つの流れがある。どちらも北欧の森の豊かな自然を背景に生まれ発展してきたもので、理念や活動内容では共通する部分も多い。自然の中で子どもたちの元気な体と心を育てる活動は、森林資源環境に恵まれた北欧諸国やドイツで、現在盛んに行われている。

1-2. 諸外国での取り組み

フィンランドでは1973年に幼保一体化がなされ、施設保育(保育園)、家庭委託保育、グループ家庭保育、プレイグラウンド活動の4つのタイプの保育形態がある。フィンランドの「森の幼稚園」は、活動の基本・中核となることを先生が子どもたちの様子を勘案して決めている。また、様々な行事に保護者に参加してもらうなど保護者の園活動への関わりが求められている点や、教育に重点を置いている点は、日本の幼稚園・保育園と共通するところがある。

スウェーデンでは活動内容を子どもたちが自分で決め、子どもたちの自主性・主体性を尊重することを基本としている¹¹。スウェーデンで「森の幼稚園」の活動が始まったのは1950年代である。この時代は、記録的な暖冬が続いていたために雪が降らず、子どもたちを対象としたスキー教室が開けないという問題に悩まされていた。そこで野外生活推進協会の事務局長をしていたヨスタ・フラム(Gösta Frohm)が、「ムッレ」という妖精を創り出し、この「ムッレ」を中心とした自然教育法を、「森のムッレ教室」という子ども向けのプログラムとして確立していったのである。そして1957年に「森のムッレ教室」が発足したのである。その後、ムッレ教育を中心とした野外保育は、スウェーデン国内に広がっていった¹²。

デンマークでは、1954年にエラ・フラタウ(Ella Flatau)という一人の母親が、毎日

⁹ 長野県「信州型自然保育検討事業」2014年4月

http://www.pref.nagano.lg.jp/jisedai/kyoiku/kodomo/shisaku/morino_yochien.html

¹⁰ 金子仁「自然体験が育む幼児の生きる力の育成—森の幼稚園での活動を通して学ぶこと」『育英短期大学 幼児教育研究所紀要』第13号、2015年3月、24頁

¹¹ 渡部かなえ「小さな命と健康を守る—北欧と日本の森の幼稚園」『総合文化研究所年報』第19号、2011年、33頁、38～40頁

¹² 岡部翠『幼児のための環境教育—スウェーデンからの贈りもの 森のムッレ教室』新評論、2007年、16～20頁

のように自分の子どもを保育のために森に連れて出かけていたことから始まった。その彼女の姿を見た近所の親たちが自分たちの子どもを預けるようになり、ヨーロッパで最初の「森の幼稚園」が設立されたと言われている¹³。

ドイツでは、1968年にヴィースバーデンの女性ウルズラ・ズーベ (Ursula Sube) が私立幼稚園を創立したのが最初であると言われている。彼女は自分の子どもと近所の子ども15人を森の中へ連れて行く許可を自治体から受け、自治体から助成金を受けずに、親の分損金で運営していた。その後1991年に幼児教育の専門誌『遊びと学び』でデンマークの「森の幼稚園」が紹介され、女性教育者のケルスティン・イエップゼン (Kerstin Jebesen) とペトゥラ・イエガー (Petra Jäger) が社団を創立した。1993年には「ドアと壁のない幼稚園」という理念のもと、自治体からの助成を受け、「フレンスブルク森の幼稚園」が設立された。ドイツの「森の幼稚園」は、「純粋な森の幼稚園」と午前中だけ森の中で過ごす「融合的な森の幼稚園」など様々な形の「森の幼稚園」がある。取り組み内容は、年間を通して自然の中での遊びやモノづくりなど自由な活動である。悪天候の場合はヒュッテ、温室、ワゴン車などの中で過ごしている¹⁴。

ドイツのノルトライン・ヴェストファーレン州では、2008年に「子ども教育法」が改正され、条文の中に「森の幼稚園」という文言が追加され、財政援助等に関する規定がされた¹⁵。

1-3. 日本における森のようちえんの歴史

日本の森の幼稚園の思想は、1912(大正元)年の倉橋惣三による「森の幼稚園」まで遡ることができる。倉橋惣三は1912(大正元)年に『幼児教育』で、「自然物ほど幼児の全身性に円満な効果(はたらき)を与えるものはない」と主張した。「森の幼稚園」は四季折々の草花が咲き、うさぎや鶏が飼育されている園庭のことを指し、現在の「森のようちえん」と同等のものとはいえないが、彼の考えが日本の幼児教育に影響を与えたのは確かである¹⁶。

日本で幼児教育に自然体験を取り入れた活動が行われ始めたのは、1980年代頃からである。1983(昭和58)年には、内田幸一が長野県に「子どもの森幼児教室」を開き、幼児を対象とした自然体験を行った。「子どもの森幼児教室」は現在、「いづな学園こどもの森幼稚園」と名称を変え、四季の自然を活かした保育を行っている¹⁷。

2005(平成17)年には北欧やドイツの「森の幼稚園」の考え方を継いで、日本の気候・風土にあわせた形で、豊かな自然環境の中で子どもの自主性を重んじた保育を目指す、全国ネットワークである「森のようちえん」が集まり、「第1回森のようちえん全国交流フォーラム」を宮城県で開催された。このフォーラムの開催をきっかけに2008(平成20)年に

¹³ 福田靖「森の幼稚園と環境教育のかかわり—五感を使って自然を体験する—」

『VISIO』第35号、2006年、83頁

¹⁴ 友定啓子「森の幼稚園の保育的意義—一人とかかわる力を育む視点から—」『研究論叢芸術・体育・教育・心理』第61巻、2012年1月、270・271頁

¹⁵ 木戸啓絵「ドイツにおける就学前施設の設立認可過程—森の幼稚園を事例として—」『青山学院大学教育学会紀要 教育研究』第59号、2015年3月、123頁

¹⁶ 倉橋惣三「森の幼稚園」『幼児教育』第21号、1922年12月、49～60頁

¹⁷ 今村光章、水谷亜由美「森のようちえんの理念の紹介—ドイツと日本における発展とその理念を手がかりに—」『日本環境教育学会』第21号、2011年7月、71頁

は、正式に任意団体として、全国ネットワーク「森のようちえん」が発足した¹⁸。

「森のようちえん」ネットワークには幼稚園や保育園だけでなく、教育支援を目的とした多くの団体が結集し、現在では全国の都道府県に一つは、「森のようちえん」という趣旨で活動している団体が存在するくらい、社会的認知度を得てきている¹⁹。その中でも鳥取県や長野県は自然保育の分野で先進的であり、鳥取県では、自然のフィールドを活用して保育を行う園を「自然保育を行う園」として認証し、それに基づいて運営費の補助を行う「とっとり森・里山等自然保育認証制度」を2015（平成27）年3月から創設している²⁰。6年間で移住してきた親子が100名以上いる鳥取県智頭町の「森のようちえん まるたんぼう」では、本格的な「森のようちえん」が展開されており、「森のようちえん」の存在が移住者増加の一つの理由となっている²¹。長野県内には、全国の都道府県で最多の数の「森のようちえん」がある²²。

1-4. 長野県における森のようちえん

長野県は県土の78%が森林であり、南北に長く、標高差もあることから地域ごとに多様な文化が育まれている。そのような環境で自然保育のよさを多くの人に知ってもらい、子どもたちと一緒に様々な体験活動に取り組んでもらいたいという願いを実現するために2015(平成27)年4月から「信州型自然保育認定制度」が施行されている²³。この制度は豊かな自然環境や地域資源を積極的に取り入れた保育・幼児教育の普及を図ることで、信州で育つすべての子どもが心身ともに健やかに成長できる環境を整備し、「子育て先進県・長野」を実現するために作られた制度である。この「信州型自然保育認定制度」に認定されている団体は長野県内に72団体あり、屋外での自然保育に重点を置いて活動している「特化型」と、自然保育にも積極的に取り組んで活動している「普及型」に分けられている。「特化型」に認定されている団体は7団体ある²⁴。

多様な自然環境の中で活動することで、体力の向上や行動の積極さが身につく。自然の中にある様々な動植物に出会うことで、子どもの興味が多様になり、発見や気づきから自由な発想力が生まれ、学びへと繋げることができる。自然保育を通して様々な教育効果が育まれるのである²⁵。もちろん雪がたくさん降る冬にも活動は行われてる。例えば、軽井

¹⁸ 木戸啓絵「現代の幼児教育から見たドイツの森の幼稚園」『教育人間科学部紀要』第1号、2010年3月、73～75頁

¹⁹ 森のようちえん 全国ネットワーク「日本の森のようちえんについて」

<http://morinoyouchien.org/learn/post-1605.html%EF%BC%9D>

²⁰ 鳥取県「とっとり森・里山等自然保育認証制度」

<http://www.pref.tottori.lg.jp/239563.htm>

²¹ 鳥取県智頭町「鳥取県智頭町移住キャラバン in 東京」

²² 長野県県民文化部次世代サポート課「信州型自然保育(森のようちえん)検討・普及事業」2014年4月

http://www.pref.nagano.lg.jp/jisedai/kyoiku/kodomo/shisaku/documents/04_gaiyou.pdf

²³ 長野県「信州やまほいく(信州型自然保育)認定制度」

<http://www.pref.nagano.lg.jp/jisedai/kyoiku/kodomo/shisaku/shizenhoiku-ninteiseido.html>

²⁴ 信州やまほいくの郷「信州型自然保育認定制度とは？」

<http://www.shizenhoiku.jp/nintei/>

²⁵ 今村光章『自然の中で子育てを考える ようこそ！森のようちえんへ』解放出版社、

沢町の森のようちえん ぴっぴでは、「どんな天候でも外にいてのびのびと遊ぶことを大切にし、冬の活動として氷のリース作りや雪合戦など雪を使った遊びをしている」²⁶ということであり、雪の存在は長野県内の「森のようちえん」にとって非常に大きなものになっている。

2. 森の幼稚園を支える考え方

2-1. シュタイナー教育

シュタイナー教育とは、20世紀初頭に哲学者ルドルフ・シュタイナー(Rudolf Steiner)によって提唱された教育論で、「教育は芸術にまで高められるべきだ」という考え方が基礎である。教育とは単に知識の伝達や技術の開発ではなく、人間の本質を理解するために探求し、子どもと教師の一期一会の関係を作り上げることだとしている²⁷。

特徴は、子供の発達を7才ごとに分けていることだ。

- 0～7歳 乳幼児期 意志が育つ
- 7～14歳 児童期 感情が育つ
- 14～21歳 青年期 思考が育つ

また、幼児期の子どもは100%模倣するため、幼児を取り巻くすべての環境が大切だとしている。生きる力を育む過程や感覚生活が活発となるこの時期に、大人は愛、模倣、感覚、信頼の4つのキーワードを最低限整えなければならないとされている²⁸。

シュタイナー教育を取り入れている幼稚園では、保育室が明るくなっていたり、天井や壁がピンク色であったり、子どもの想像力を豊かにするため読み聞かせを積極的に行っていたりする。自由で自発的な遊びを重視し、手足や全身を動かす想像力を用いた自由遊びを勧めている。例えばフォルメン線描やオイリュトミーなどがある。フォルメン(Formen)線描とは、「線や形を描いて、子どもの身体をもって意志の訓練になるもの」であり、オイリュトミー(Eurythmie)とは、「動きの芸術」や「運動芸術」と呼ばれ、シュタイナー自身が考案した手法である²⁹。神奈川県にある学校法人シュタイナー学園では、学年が1～12年生(7～18歳)に細かく分けられ、1～8年生までを教育上のひとまとまりとしている。1～4年生は、基本科目として国・算・理・社・フォルメン線描が設定されており、毎朝1時間45分を使って、3週間前後ひとつの科目を学ぶ。担任教師が受け持つこの時間をエポック授業と呼び、105分×3週間行われる³⁰。

木戸啓絵は、2011(平成23)年10月と2012(平成22)年3月に森の幼稚園教育を導入しているドイツ、ノルトライン・ヴェストファーレン州のシュタイナー幼稚園での実習とインタビュー調査を行い、その結果を報告している。ドイツのシュタイナー幼稚園でも、

2013年、111～114頁

²⁶ 森のようちえん ぴっぴ中澤真弓さんへの2016(平成28)年7月29日聞き取り調査より

²⁷ NPO法人 横浜シュタイナー学園 https://yokohama-steiner.jp/kyoiku/about_steiner/

²⁸ 加納美智子『今日からできる 7歳までのシュタイナー教育』学陽書房、2006年、14～17頁

²⁹ 後藤恭子「人間理解からの幼児教育 シュタイナー教育から」『聖カタリナ女子短期大学紀要』第32号、1999年3月、37～39頁

³⁰ 学校法人 シュタイナー学園 <http://www.steiner.ed.jp/edu/>

子どもの自然体験、体を動かす機会や直接体験が減少しているため、多様な対応が必要な状況であったり、森の幼稚園の要素を取り入れ、さまざまな体験の機会を意識的に確保し、子どもの心身のよりよい育ちを保障しようという試みが行われていたとのことである。シュタイナー教育が行われている幼稚園でさえ、子どもの想像力や感覚を発達させる機会が減っているため、自然の中での活動に視点が置かれてきている³¹。

2-2. モンテッソーリ教育

モンテッソーリ教育とは、20世紀初頭に教育者マリア・モンテッソーリ(Maria Montessori)によって始められた幼児教育法である。子どもをひとつの生命として考えることが根幹となっている³²。物理的環境がその特徴とされ、子どもの体格に合わせたサイズに教具などがされていることが特徴である³³。モンテッソーリはイタリアで生まれ、史上初の女性医学博士となった人物だ。彼女は子どもの仕事である遊びの中から生まれる「互いに尊重しあう子どもの精神」に関心を抱いた。1906年にモンテッソーリ学校を開設するまで、発展の乏しい地域に住む障害児の発達研究を基礎とし、知能の発達が遅れた子どもたちが一般の子どもと同様に学習ができるようにするよう力を尽くすため、子どもたちを観察した³⁴。

日本でのモンテッソーリ教育の受け入れには二段階あり、最初は明治初期から大正末期の期間である。1912(明治45)年には「万朝報」という雑誌で取り上げられた。しかし、この時は教具などの部分的な受容であったため、次第に衰退し、大正末期にはほとんど見られなくなった。その後の需要は1960年代に入ってからである。この時の本格的な受容により現在までモンテッソーリの影響は続いている。モンテッソーリ教育では、質の低下を防ぐために教師の免許が厳しく管理される。当時の日本では、教員免許取得者が増加しており、そうした者によってこの教育法が実践され、日本各地に広まった。1968(昭和43)年にはモンテッソーリ協会が設立されている³⁵。

オーストリアのウィーンにあるモンテッソーリ保育園は、モンテッソーリの提唱した家具や建築空間でできている。洗面台の周囲の鋼管に至る細部まで美しいデザインがいきわたっていること、教室の床で作業ができるよう広いこと、教室の机や椅子が子どもサイズになっていることなど、魅力ある空間が作り出されている³⁶。神奈川県にもモンテッソーリ教育を取り入れている幼稚園がある。園長は、モンテッソーリの「人類の前途に光明を

³¹ 木戸啓絵「ドイツのシュタイナー幼稚園における「森の幼稚園教育」の導入」『青山学院大学教育学会紀要「教育研究」』第57号、2013年、23・24、35・36頁

³² 田中正浩「マリア・モンテッソーリの子供観—「生命助成の教育」の形成基盤として—」『駒沢女子短期大学研究紀要』第45号、2012年、22頁

³³ 高橋節子「子どものための物理的環境とは何か—モンテッソーリ教育の場合—」『人間環境学研究』第13巻第1号、2014年3月、21頁

³⁴ 保田恵莉「幼児教育の追求とモンテッソーリ教育」『花園大学社会福祉学部研究紀要』第22号、2014年3月、54頁

³⁵ 高橋節子、元岡展久「モンテッソーリ保育所における物理的環境—非モンテッソーリ保育所との比較による検討—」『日本建築学会技術報告書』第20巻44号、2014年、207・208頁

³⁶ 高橋節子、元岡展久「子どものための建築空間—ウィーンのモンテッソーリ保育園の場合—」『日本建築学会大会学術講演梗概集』9061、2009年7月、122頁

与えるには、幼い心の中に正しい宇宙観の種子をまく以外にない」という考えの基に教育方針を定めており、「一人でできるように手伝ってください！ Help me to do it by myself!」という言葉が掲げられている³⁷。

2-3. フレーベル教育

フレーベル (Friedrich Wilhelm August Fröbel) による教育論は日本の幼稚園に広く浸透している。明治以来、日本の幼稚園ではお遊戯や折り紙、造形遊びなどが活発に行われてきたが、それらはすべてフレーベルの教育論の影響を受けたものである。また、1840年にフレーベルは、1839年に自身が設立した「遊びおよび作業の教習所」をキンダーガルテン (Kindergarten) と命名しているが、これを日本語に訳したものが「幼稚園」である³⁸。

フレーベルは幼児教育だけでなく、少年期の教育についても考えを示している。少年期では、職業教育との関連は持ちながらも、基本的に普通教育を行うべきだと考えた。諸教科における作業は、人間の本質を少年自身の中に全面的に開花させ、表現することだけを目的としている。職業に直結するものだけを少年期に教育として行うのではないと強調するのは、フレーベルが少年期の教育は人間としての教育の基礎になると確信を持っていたためだ。こうした少年期の教育を「基礎づける教授」と言う³⁹。

日本にもフレーベル幼稚園がいくつかある。茨城県にあるフレーベル幼稚園では、その教育方針として、3歳児と4歳児の混合保育や自然との触れ合いを意識したいいわゆる情操教育など7つをその方針として定めている⁴⁰。大分県にある学校法人フレーベル学園が運営する三芳幼稚園では、健康を土台にけじめのある生活態度を養い、子どもの感情を豊かに育て、知的欲求を伸ばすことを目的としている⁴¹。いずれもフレーベルの環境を活かした感覚育成教育に共感したものだ。

これらの教育理論は「森の幼稚園」にも導入されている。子どもの活動が室内に限定されるとできることは限られる。活動が制限されると、様々な体験の機会を失うことにもなり、上記の教育理論で提唱されている生きる力の育成や考える力の発達は難しいだろう。こうした状況を変えるために、「森の幼稚園」が盛んになってきている。しかし、「森の幼稚園」の冬の活動、とくに雪に触れる活動ができない地域が日本国内にはたくさんある。そこで、私たちは新たに「ゆきのようちえん」、そして「ゆきのがっこう」を提案したい。雪のない地域の子どもたちに、雪を通して、豊かな想像力を身に付け、人々の知恵を学んでもらうことが目的だ。

³⁷ 学校法人 高根学園 横浜・モンテッソーリ幼稚園

http://kindergarten.montessori.ed.jp/ynbw/021_summary.shtml

³⁸ 庄司圭子「一資料—AWO キンダーガルテン「フレーベルハウス」の教育環境が幼児の心身の発達に及ぼす影響についての一考察」『神戸女子短期大学 論攷』第58巻、2013年3月、23頁

³⁹ 豊水清浩「フレーベルにおける学校教育学に関する一考察」『浦和大学短期大学部 浦和論叢』第31号、2003年、68頁

⁴⁰ 学校法人 江田学園 フレーベル幼稚園 http://www.freebel.ed.jp/?page_id=127

⁴¹ 学校法人 フレーベル学園 三芳幼稚園 <http://www.frobelmiyoshi.jp/13/>

3. ゆきのようちえん・ゆきのがっこう

3-1. 内容

全国の「森のようちえん」にアンケート調査を行ったところ、教育方針として「子ども自身が生きる力を培うことを目的とし、子どもが自分でチャレンジすることをサポートするために、待つことを大事にしている」⁴²、「子どもの力を信じて、自然や人と関わる楽しさをおのずと感ずることができるようにしている」⁴³というような回答が得られた。さらに「イベントに参加するというよりも、雪の中での生活を自分たちで作っていく方がおもしろい」⁴⁴、「雪を利用した生活で冬の寒さを乗り越えたり、かまくらを作ったり、雪にまつわる生活の知恵や文化を体験したい」⁴⁵、「子どもと対話して決めるプログラムがあるといい」⁴⁶というようなアドバイスをいただいた。また、長崎県など遠方の地域は移動距離が長くなり、交通費の負担が大きくなるため、参加不可という回答になったが、多くの「森のようちえん」から「たくさん雪でしかできない体験がしたい」などという回答があった。それらをもとにして、以下のような「ゆきのようちえん・ゆきのがっこう」プランを作成した。対象となるのは、全国の雪が少ない、または降らない地域の保育園児、幼稚園児、小学生である。

3-2. プログラム

年齢別に3つのプランを作成した。各プラン3泊4日、料金は1日約1万円とする。宿泊はニュー・グリーンピア津南と農家民泊が選べるようにする。ニュー・グリーンピア津南は、最大530人収容することができる。子ども用スノーシューの用意やスキーウェアのレンタル、インストラクターを希望人数手配することはニュー・グリーンピア津南が行う。また、スキー場のオープンが12月の第3週くらいであるということだが⁴⁷、お客さんの少なくなる時期、学生ボランティアが活動しやすい時期である2~3月の客室稼働率の低い平日を実施時期とする。

「ゆきのようちえん・ゆきのがっこう」の目的は、雪に親しみをもってもらうこと、体力をつけること、協調性を養うことである。それぞれの目的に合わせた体験をプログラムの中に組み込むことで、滞在期間中に子どもたちが自然の中で自由に、のびのびと楽しみながら様々な力をつけるきっかけ作りを提供する。

雪に親しみをもってもらうために、3つのプラン共通でウィンタースポーツを体験する日を設け、スキーやそり、スノーシュートレッキングなど、雪に触れることの楽しさを感じてもらおう。体力をつけるために、滞在期間中の朝の日課として、雪かきとスノーシューを履いた森の散歩を行い、冬の森の様子を観察する。協調性を養うために、雪の大運動会を取り入れ、学年関係なくスノーフラッグやリレーなどの競技を行う。食事は、アレルギーに対応した上で、津南町の郷土料理を取り入れたメニューを提供する。園児の読み聞か

42 長崎県「諫早市こどもの城」の回答より

43 兵庫県「森のようちえん すまっこのもり」の回答より

44 茨城県「自主保育コロボックル」の回答より

45 神奈川県「NPO 法人 おかげさまのめぐみ舎」の回答より

46 宮城県「自然学校キッツ森のようちえん」の回答より

47 ニュー・グリーンピア津南への2016（平成28）年8月23日聞き取り調査より

せは、地域の人に地域の昔話を話してもらう時間にする。また天候不良の場合も考えられる。そのためのプログラムとして、米粉パン作りや和太鼓体験、民俗体験、餅つきを用意した。民俗体験は、わら草履づくりや草木染め体験である。さらに参加した特典として、滞在期間中に子どもたちが選んだ津南町の特産品を各家庭に後日発送することで、子どもたちだけでなく、家族にも津南町について興味や関心を持ってもらう。

プログラム

	園児		小学校1年生～3年生		小学校4年生～6年生	
1日目	14時30分～	開園式	14時30分～	開校式	14時30分～	開校式
	15時～	雪と触れ合う時間	15時～	雪合戦	15時～	かまくらづくり
	17時～	夕食	17時30分～	夕食	18時～	夕食
	18時30分～	読み聞かせ、星空観賞	18時30分～	星空観賞	19時30分～	星空観賞
	19時30分～	お風呂	19時30分～	お風呂	20時30分～	お風呂
	20時30分	就寝	21時	就寝	21時30分	就寝
2日目	6時30分	起床	6時30分	起床	6時30分	起床
	7時～	雪かき、散歩	7時～	雪かき、散歩	7時～	雪かき、散歩
	8時～9時	朝食	8時～9時	朝食	8時～9時	朝食
	9時30分～15時	ウィンタースポーツ体験	9時30分～16時30分	ウィンタースポーツ体験	9時30分～17時	ウィンタースポーツ体験
		そり遊び		クロスカントリー		クロスカントリー
		スノーシュートレッキング		雪の大運動会		雪の大運動会
		スキー教室		スキー教室		スキー教室
		雪の中のお宝探しから選択				
	12時～	昼食	12時～	昼食	12時～	昼食
	13時～	休憩	14時～	灯笼づくり	13時45分～	スカイランタン作り
	14時30分～	雪国の暮らし体験			18時～	夕食
	17時～	夕食、星空観賞	17時30分～	夕食、灯笼観賞	19時30分～	スカイランタン飛ばし
	19時～	お風呂、読み聞かせ	20時～	お風呂	20時30分～	お風呂
20時30分	就寝	21時	就寝	21時30分	就寝	
3日目	6時30分	起床	6時30分	起床	6時30分	起床
	7時～	雪かき、散歩	7時～	雪かき、散歩	7時～	雪かき、散歩
	8時～9時	朝食	8時～9時	朝食	8時～9時	朝食
	9時30分～15時	ウィンタースポーツ体験	9時30分～16時30分	ウィンタースポーツ体験	9時30分～17時	ウィンタースポーツ体験
		そり遊び		クロスカントリー		クロスカントリー
		スノーシュートレッキング		雪の大運動会		雪の大運動会
		スキー教室		スキー教室		スキー教室
		雪の中のお宝探しから選択				
	12時～	昼食	12時～	昼食	12時～	昼食
			17時30分～	夕食		
17時～	夕食、星空観賞	18時45分～	星空観賞	18時～	夕食	
19時～	お風呂、振り返りの時間	20時～	お風呂	20時～	お風呂	
20時30分	就寝	21時	就寝	21時30分	就寝	
最終日	6時30分	起床	6時30分	起床	6時30分	起床
	7時～	雪かき、散歩	7時～	雪かき、散歩	7時～	雪かき、散歩
	8時～	朝食	8時～	朝食	8時～	朝食
	9時30分～	園児が希望すること	9時30分～	スノーシュートレッキング	9時30分～	スノーシュートレッキング
	12時～	昼食	12時～	昼食	12時～	昼食
	13時	出発	13時	出発	13時	出発

まとめ

「森のようちえん」における冬の取り組みを津南町で行い、全国の雪が少ない、または降らない地域の幼稚園児・保育園児・小学生を呼び込むことにより、冬期のニュー・グリーンピア津南・スキー場・農家の収益が上がるとともに、子どもたちが雪で遊ぶ楽しさを知り、体力をつけることにもつながる。また、子どもたちの保護者にも津南町の魅力を知ってもらうことで、継続的な観光客の呼び込みが可能となる。「ゆきのようちえん・ゆきのがっこう」は、「やっかいもの」となっている雪を活用でき、津南町の交流人口が増えるだけでなく、いくつものメリットがあるプランになるであろう。